

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170900274		
法人名	有限会社ハートフル拓愛		
事業所名	グループホーム武芸川あかね		
所在地	岐阜県関市武芸川町八幡419-1		
自己評価作成日	令和4年11月8日	評価結果市町村受理日	令和5年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170900274-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然環境にも恵まれた閑静な住宅環境に立地し、木造で家庭的な安らぎのある雰囲気の中で、今年度より3ユニットとなり、安心と穏やかな生活を支援し、全職員が利用者様本位のケアを心掛け、環境づくりに努めている。 新型コロナウイルス感染症対策を行い、近隣の喫茶店や散歩、レクリエーション等を行い、QOLを高める活動に取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、一般住宅が密集していない静かな地にあり、日当たりも良い。運営推進会議や面会、家族会、利用者の外出など、感染予防対策を講じながら、行政や地域の協力の下で徐々に再開し、利用者の穏やかな生活と馴染みの関係維持に努めている。24時間の医療支援体制の下で看取りケアにも取り組んでおり、利用者と家族が最期まで安心して過ごせるよう支援している。管理者と職員の信頼関係も良好であり、職員は研修にも積極的に参加している。職員会議で研修内容を伝達し、全体で共有を図りながらサービス向上に繋げ、一人ひとりがやりがいを持って日々取り組んでおり離職率も低い。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の冒頭で、運営方針を唱和し、運営理念を取締役が読み上げることにより、理念の共有に努めている。 常に利用者様に尽くす心で、地域とも関わりながら理念の実践に取り組んでいる。	理念は、玄関や廊下、居間にも掲示している。職員は社員証と共にホルダーに携帯し、常時、意識できるよう工夫している。毎月の職員会議では、管理者と共に運営方針と理念を唱和し、それを基に日々のケアを振り返りながら、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域商店との交流や近隣住民からの野菜や花などの差し入れなどもあり、地元職員の採用もしている。 また、地元でのフェスティバルへの参加も検討している。	地域の自治会へ寄付をしている。以前は、事業所の中庭でのバーベキューに住民を招待していたが、今は難しい状況である。地元のフェスティバルには参加することができ、地域の子ども神輿の立ち寄りの際には、玄関先で出迎え、交流することができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、社会福祉協議会、福祉委員、地区民協に事業説明をするなど、認知症の方への支援や接し方の体制づくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域関係者、家族代表の参加による運営推進会議を2ヶ月毎に開催、事業内容や利用者状況などを報告し、事業評価を受け、意見交換の場を設けている。今年度は、5月・7月・9月は実施し、11月も予定している。	コロナ禍で書面開催が続いたが、5月から感染予防対策をした上で、対面での会議を開催している。地区社協、行政関係者、家族会代表等の参加があり、前年度からは駐在所の警察官も加わっている。事業所の活動や利用者の状況について報告し、意見交換や助言を得てサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の研修会に参加したり、市からの介護相談員の受け入れを行っている。また、運営推進会議には、市高齢福祉課担当職員の派遣を受け、行政機関との信頼関係を築いている。今年度は認知症対応研修会(オンライン研修)に参加した。	行政担当者には、運営推進会議への参加を得ている。また、市や社協等主催の研修会への参加、介護相談員の受け入れなどを通して、連携を図っている。感染対策についても相談しながら、助言や指導を得て、より良いサービスに繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを行うよう、職員会議で研修をし、必要が生じた場合は家族の同意を得るとともに必要最小限の抑制とし、QOLの確保に努めている。日中は玄関の施錠はしていない。	身体拘束をしないケアについて、指針を基に管理者及び職員が一丸となって取り組んでいる。年1回の研修会や事例検討会議を通して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。現在、拘束が必要な利用者はいないが、日々のケアを振り返り、介護の質の維持・向上に取り組むとしている。	実施の有無に関わらず、身体拘束適正化検討委員会は3ヶ月に1回以上の開催が必要である。また、虐待・身体拘束や不適切ケアの防止などの観点からも、議事録は専用ファイルに残して常にケアをふり返り、今後も心身の抑制をしない支援の維持継続に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の議題で取り上げるとともに、研修会参加等により、学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされないように注意を払い、防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム武芸川あかね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族会で自立支援事業や成年後見人制度等について説明を実施。現在は家族擁護等により対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時にパンフレットにより利用等のサービス内容などを説明。入所申し込みをしていただき、利用者・家族の理解・納得を得た上で重要事項を説明し契約後、サービスを開始している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月で運営推進会議や家族会を開催し、行事内容や生活状況を報告し、意見交換の場を設けている。今年は、新型コロナウイルス感染防止対策をしっかりと行いながら、11月も開催を予定している。	休止していた家族会や面会を徐々に再開している。毎月発行の新聞には、翌月の行事予定の書かれたカレンダーと利用者の写真を多く掲載し家族に送付している。また、担当職員が請求書送付の際に、利用者の状況を書いたメッセージも同封している。電話やメール、来所時に家族の意見や要望を聴き運営に反映させている。	コロナ禍であっても、利用者の情報を得たいという家族のニーズは高まっている。毎月発行の新聞にも、担当者から利用者の状況を個別に伝えるメッセージ欄を設けるなど、更に家族の理解と満足感が得られる工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では業務内容の説明、意見聴取・検討を行い、気づいた時にはヒヤリハットメモや管理者に報告をしている。始業・終業時の申し送りが必要事項は、周知するほか、職員間で情報の共有を図っている。	職員は、管理者に意見や相談をしやすい関係にある。職員の意見は、職員会議や申し送り時に共有、検討し、運営やサービスの改善に反映させている。ヒヤリハットや事故報告書の内容を職員間で共有し、原因や対応方法について話し合い、改善に繋げるとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の資質向上のため、それぞれが目標達成計画を立て勤務に取り組み、今年度は、オンライン研修や外部研修の機会を確保し、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講を希望する職員を優先し、外部研修の受講を計画的に進めている。また、研修後は職員会議において研修報告を行うことにより、技術や情報を職員と共有、研鑽しあえるよう努めている。今年度はオンライン研修や外部研修を実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症拡大以降は情報交流は行えなかったが、今年度はオンライン研修や外部研修にも出掛け、3ユニットの案内状、挨拶送付などの活動の取り組みを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅介護支援専門員や医療相談員からの情報提供やサマリー等の入手により、適切なサービス体制をとるとともに、利用者(家族)の要望に添う関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所予定者の生活歴や家族の思いを確認するとともに、介護に対する慰労を行う。入所後の生活面について、安心安全に心掛けたケアに努める旨を説明し、初期段階の関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や前介護支援専門員からの情報提供やサマリー等の入手により、管理者・ケアマネ・職員も交えて、利用者が必要としているサービスについて検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在はコロナ禍のため、食事やおやつは一緒にできないが、レクリエーションや散歩等を共にし、日常会話を楽しみながら、お互いの信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナ禍により、来訪時に玄関先にて面会をしていただいたり、電話にて近況報告等を行い、家族との絆を大切にし本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪時間帯は、制限を設けずコロナ感染予防対策を行い、玄関にての面会、スカイプ交信、手紙、電話などで関係が途切れないように支援している。希望する家族には近隣の喫茶店にも出かけられる支援を行っている。理美容の訪問は継続している。	感染対策をした上で、玄関にて家族や友人等と面会している。また、家族の希望を受け、喫茶店の空いている時間帯に予約をするなど、面会を兼ねて利用者の外出の機会を作る支援を進めている。ユニット間の交流は継続し、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自立度や相性、好みなどに配慮して、席を決定し、ユニット間の交流も含め、日中はリビングでの生活を基本とし、利用者個々に孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に今後困りごとがあれば、いつでも必要な情報の提供をさせていただき旨説明するなど、できる限りの支援に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションから一人ひとりの思いを把握し、表情や仕草に気を配ることにより、本人の思いを汲み取るよう配慮している。全職員は申し送り時などで情報を共有している。	介護度や重度化が進むことで、自らの意向を積極的に伝えることが難しくなっている。職員は、家族からの情報と利用者との関わりの中で、表情、つぶやき、反応などから思いや意向を汲み取り、分析しながら本人本位のサービス提供に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には馴染みのものを持参していただき、これまでの生活と変わらず、本人らしい暮らし方ができるようコミュニケーションをとっていく。家族には更なる情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常のコミュニケーションの中から、ADLと状態変化の把握に努めるとともに、毎朝・夕の申し送り時に入居者全員の心身状態と日常生活状況を報告することにより、情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を配置し、現状把握に努めるとともに、職員会議ではカンファレンスを実施し、情報の共有している。家族の面会時には本人を交えて意向の確認をしながら介護計画の作成をしている。	家族にサービス担当者会議への参加を働きかけている。昨年度から、半数以上の家族が利用者と共に参加している。事前に医師及び訪問看護師等から情報収集し、利用者や家族、看護師、介護支援専門員、担当職員等が意見交換を行い、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を時系列でipadに入力している。小さな変化等気づいたことを朝・夕の申し送りで報告し、対応している。介護計画の見直しが必要となった場合等は職員会議にて提案・検討し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションや訪問歯科診療などの連携で利用者一人ひとりが健康で安定した生活ができるよう取り組んでいる。看取りを希望される場合は、人生の終焉まで誠実に寄り添った介護を提供している。		

岐阜県 グループホーム武芸川あかね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年もコロナ禍のため、幼稚園の行事参加はできなかったが、近隣の喫茶店や散歩等を楽しむことでQOLの向上に努めている。また、地元でのフェスティバルにも参加する予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は家族等の希望を尊重するとともに、協力医の月2回の訪問診療を確保している。また、緊急時は電話相談等による24時間の医療連携体制を取っている。訪問歯科の訪問は、月2回水曜日を確保している。	契約時にかかりつけ医について説明し、利用者と家族が選択している。現在、全員が協力医による月2回の訪問診療と訪問歯科による健康管理を受けている。専門医への受診は家族に依頼しているが、難しい場合は職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送りにより、日常の様子、気づきなどの情報を共有するとともに、医療連携業務委託契約を締結している訪問看護ステーションとの連携により、病気の早期発見と重度化防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必要な情報を書面にて提供するなど、病院との関係作りに努めている。また、退院にあたり適切な支援ができるよう、医療相談員や看護師とのカンファレンスを適宜実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、終末期の説明を行い、家族の看取り介護の要望に応えるために医療連携による支援に取り組み、職員は事業所内外で研修研鑽をしている。	契約時に、重度化や終末期の対応について説明している。事業所での看取り希望者は多い。看取り指針を基に説明し、本人・家族の意向を確認している。支援の記録用紙には、職員が時間・介助内容・利用者の様子などを詳細に記録し、チームで看取りケアに関わっている。	看取りについては、不安を抱く職員もある。状況に応じて、看護師等を交えたケースカンファレンスや研修実施が望ましい。利用者と家族の思いや葛藤を受け止めながら、効果的なケア等について全職員で共有し、マニュアルの作成、見直しにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習などが今年度は開催されなかったため、参加は出来なかったが、消防署の指導のもと消火器の使用方法などは訓練している。応急手当のマニュアルの周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下で、近隣の作業者にも参加していただき、年2回避難訓練を実施している。ソーラー発電、スプリンクラーを設置、防災備蓄品の交換、補充も行い、ハザードマップを活用して万全を期している。今年度は、災害時に役立つ介護技術研修にオンラインで参加した。	近隣企業や住民の協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。災害時用の設備と備蓄品の点検・補充を行っている。車椅子の利用者も多い為、災害の種類にもよるが、まずベランダへの避難誘導を実施している。近隣の協力者も含めた災害時における連絡網を作成し、職員間で確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレ介助ではプライバシーの確保、羞恥心やプライドを損ねない声掛け、言葉遣いを常に意識し、配慮している。今年度は、外部講師による職場内研修は行えなかったが、接遇についての研修を職場内で実施している。	排泄と入浴支援時には、特にプライバシーと尊厳を大切にケアの実践に努めている。浴室入り口には暖簾をかけ、ドア開放時に中が見えないよう配慮している。ひとつのトイレに利用者が集中すると、トラブルが発生しやすいため、思いを大切にしながら、使用場所の調整をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者への傾聴と共感の姿勢もち、本人の思いを否定しないよう配慮している。更衣時などは、出来る限り本人に選んでいただけるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを優先し、コミュニケーションを大切にその人らしい支援に心掛けている。散歩時には、歩行にも気を配り、職員といろいろな会話を楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清廉さに心掛け、利用者の好みの衣服の着用、入浴後の衛生チェック、髭剃り等の声掛け・介助を実施している。理美容の定期訪問により散髪を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年度7月より、副食のみ宅食で提供し、ごはん、味噌汁は職員が調理し、誕生日や行事などには、本人の希望に合わせたメニューに配慮している。	副食のみ宅食を導入したことで、職員にゆとりができています。主食と汁物、副食1～2品やデザートなどは職員が調理し、利用者の希望や好みを反映させた豊かな食事となっている。誕生日には、利用者が楽しめる食事支援を行い、笑顔に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた食事量、食事形態を調整し、水分補給はお茶だけでなく好みの飲み物を昼夜問わず摂取できるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じ、歯磨きや義歯清掃の声掛けや、介助等を実施している。また、月2回の訪問歯科診療時、義歯調整や歯磨き指導等を受け、口腔内状態が良好に保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声掛け、誘導、見守りの支援をし、利用者の状態にあった排泄用品の選択や組み合わせで、排泄の自立支援に努めている。夜間のみポータブルトイレを使用されている方の見守り支援も行っている。	昼間はトイレでの排泄を支援している。利用者の状態や時間帯に応じて排泄用品を選択し、費用負担の軽減にも繋げている。夜間頻尿がある人も、本人の意向によりトイレで排泄が出来る。家族には、使用枚数を記録した用紙を送付して説明し、理解と協力を得ながら、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせて、声掛けをするとともに、規則正しい食生活や栄養バランス等に配慮し、散歩や運動も取り入れて自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は今年度より週2回となるが、週4日は入浴の機会があるため、身体状態に合わせて当日入浴ができない場合は、次の日に入浴ができるように配慮している。檜作りの浴槽とジャグジー付きの機械浴もあり、安全な入浴を支援している。	入浴日を週4日設定し、利用者の希望や体調に応じて週2回の入浴を支援している。汚染時には、部分浴で気持ちよく過ごせるよう配慮している。檜作りの個浴とチェアー浴(機械浴)も設置しており、利用者の状態に合わせて、安心・安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や日中の休息時間は、体調に配慮し利用者のペースで実施している。天候の良い日には、順次布団干し、シーツ交換をし、清潔な寝具で気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師のチェック指導の下、薬の説明書を常備し、間違い、飲み忘れなどがないように援助している。毎朝のバイタルチェック時には会話を通して体調の変化や、症状の確認、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの能力や特技に合わせた役割(お膳拭きや新聞畳みや清拭用タオル作りなど)を支援している。また、穏やかな日には、近隣の散歩や喫茶店に出かけ、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度もコロナ禍のため、制限はあるが、コロナ感染予防をしながら、天候や利用者の健康状態に合わせ、少人数にて、近隣の喫茶店や季節行事、散歩などを実施している。また、希望外出は、家族に協力をお願いしている。	感染予防対策をした上で、散歩や近隣の喫茶店へ出かけたり、中庭で寛ぐ時間を作るなど、戸外で過ごす機会を増やしている。花見や紅葉狩りなどのドライブにも出かけている。また、利用者の希望も受け止め、個別外出は、家族に依頼し協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、家族より預かり、ホームで管理している。入所時には現金や貴重品についての預かり管理に同意していただいている。利用料請求時には、現金出納帳のコピーや領収書を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを希望される場合は、便箋やハガキ等の購入支援を実施。電話利用の要請があれば、事務所より家族に連絡し、取次により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造で落ち着いた共用空間には、季節の花等を飾ったり、行事の写真や作品を展示している。天気の良い日には、中庭に出て日光浴を兼ねお茶をしたりレクリエーションを楽しめるようにしている。	廊下、天井、壁等、全てに木の温もりが感じられる環境である。廊下も広い。対面式のキッチン周りは、職員も利用者も互いの動向が確認しやすく、利用者が快適かつ安心して過ごせる空間となっている。職員と利用者が共同で作った季節の作品や行事写真などが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルでは、気の合った人同士で思い思いに過ごせるよう席次に配慮しつつ、個々の時間と居場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室を和室とし、今年度は障子からカーテンに変更し、落ち着いて過ごせるようになり、個々に使い慣れた家具などを持ち込み、心地よく過ごせるように配慮している。また、家族等の写真や本人の作品等も飾っている。	居室の障子窓を、遮光と遮熱効果のあるカーテンに替えたことで、利用者も過ごしやすくなっている。畳敷きの居室にベッドと空調が備え付けられている。利用者は馴染みの家具や小物を持ち込み、家族の写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、個々の表札(本人の目線の高さや目印)を揚げ、一人ひとりの状態に合わせた居室内の物品を配置して、出来る限り自立した生活ができるように配慮している。また、トイレや浴室などは分かりやすく表示をしている。		